

タイトル	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
クラス壁面づくり ～季節を感じて～	中	学級生活 （特別活動・自立活動）	矢野明子

<ねらい>

- ・教室壁面を作ることを通して、友達と協力して活動する。
- ・手指を使って制作活動をすることで、巧緻性を高める。
- ・その時期にあった壁面を制作することで、四季や行事を感じる。

1. 生徒の実態

中学部2年生6人の学級である。発達段階は新版K式発達検査（2001）では、1歳半から、6歳程度の生徒である。ハサミや絵を描くことが得意な生徒、器用ではあるが、自分で考えて書くことが苦手な生徒、紙をちぎったり、貼ったりすることが苦手な生徒など、学級という単位であるがゆえに、課題が幅広い。クラス全体として、積極的に関わりあうことは少ないが、お互いのことを気にしあう様子が見られる。

2. 題材の方向性

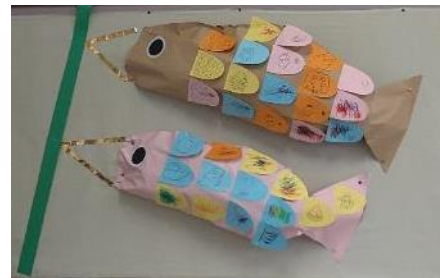
クラスの個々の実態の幅は広いことから、それぞれが同じものを作るよりも、得意なこと、できること、課題となることを分業で行うことで、一つの作品を作り上げることにした。また、Chromebookを使って、絵を描いたり、色を塗ったりすることで、Chromebook 使い方を確認したり、独特の色調を楽しむことにした。

3. 各月の壁面

（1）5月 こいのぼり

4月下旬から取り組んだ、こいのぼり。それぞれが小学校、小学部からの生活の中で、なじみがあったせいか、イメージをもって取り組むことができた。

こいのぼりを立体的にするために、袋状にして、中に新聞紙を丸めた物を詰めた。口の所から入れることができるように、しっかり丸められる生徒、難しい生徒もいたが、友達の分を丸め直したりすることで、膨らみを表現した。うろこの部分は一人3枚ずつ程度、色を塗ったり、イラストを描いたりして貼った。絵を描くことが苦手な（抵抗）のある生徒に対しては、カーボン紙を使ってなぞった。



（2）6月 「大雨やなあ」

6月の梅雨時期をイメージした作品を作った。全員で行った作業としては、カサに色鉛筆やクレヨンでカラフルなカサをそれぞれ数個ずつ作った。

画用紙をハサミや裁断機を使って、雨を表現するために細長く切る班。また、あじさいを作るために、和紙にスプレーで色づけする班などに分かれて行った。早くできた方が、片方を手伝うこともできた。



紙皿にスプレーした和紙を貼り、あじさいを作っている間に、一部の生徒で、細長く切った画用紙を雨に見立てて、壁面に貼る作業も行った。教師としては、平行に貼っていくものと思っていたが、生徒の感性でいろいろな向きで貼ることで、大雨のイメージを自分たちで表現させることができた。タイトル「大雨やなあ」は、生徒が壁面を見て、つぶやいた言葉をそのままタイトルにした。

（3）7月「でっかい太陽とあおむしたち」

7月は、迎える夏をイメージして、太陽を中心に置いた作品にした。生徒たちにもなじみのあるエリックカール「はらぺこあおむし」をイメージして、あおむしやお菓子などをたくさん並べた。

青虫やお菓子の部分は、白黒のイラストをパソコンに取り込んで、それぞれが Chromebook の色塗りの機能を使って、取り組んだ。色鉛筆やクレヨンでは、なかなか広範囲に力強く塗ることで難しい

生徒も、軽くなぞると色が出ることで、腕を大きく動かしながら塗ることができた。また、Chromebookの色の種類が少ないこともあり、苦戦した生徒もいたが、それぞれ細かい部分にまで気を配って、さまざまなあおむしやお菓子のイラストができた。

太陽の部分は、エリックカールも用いたという技法（紙に絵具を垂らして、定規でそれを引き、色の重なりや厚みを出す）を用いて、全員で行った。絵具広がりがおもしろく、独特の雰囲気太陽ができた。タイトルは、生徒に尋ねて、考えたものである。

（４）９月 お月見

９月は、お月見をイメージしてススキ、うさぎ、団子を作った。月は、背面に黒の布を貼ることで７月の太陽を再利用することができた。

全員の作業としては、ウサギの色塗りを、Chromebookで行った。２回目と言うこともあり、ほぼ説明がなくても、自分で色を選んで塗ることができる生徒も増えた。色塗りをすると、データが教師と共有されているので、一括して、教師がプリントアウトし、生徒とラミネートの作業を行い、ハサミで切り抜いた。新聞紙にスプレーで色づけすることは全員で行ったが、そこからその新聞紙の一部を切って、細長く丸めていく班と、新聞紙を丸めて和紙で包む団子を作る班に分かれて行った。どちらも手先を使った作業となり、苦手な生徒も多く、よい作業になった。

（５）１０月 ハロウィーン

近年、ハロウィーンについても、よく話題に上がる行事なので、壁面に取り入れることにした。

お化けをフェルトでパーツを作って、それぞれで顔を貼った。同じパーツではあるが、置く場所によって、それぞれ表情豊かな物になった。また、二枚あわせをしたフェルトの内側に新聞紙を小さく丸め入れて膨らみをもたせた。また、針と糸を使って、二枚のフェルトを縫い合わせた。初めての活動ではあったが、やったことのある生徒もあり、縫い目の印をつけておくことで、一人で縫い進める生徒も半数程度いた。

（６）１２月 クリスマス

生徒の一番の楽しみといってもよい、クリスマスの壁面を行った。最初に、黒の布を貼った壁面に、クラフトパンチで、○や結晶型に型を抜いた。クラフトパンチは、押し込みが固く、一人でできる生徒は半数であった。また、その抜いた型を壁面一面にバランスよく貼っていくことは難しいようで、何度か全体を見るように言葉かけを行った。

ツリーは、お花紙で花を作って貼り詰めた。うすいお花紙を広げていくのは指先に集中して取り組む様子が見られた。また、同時にツリーの木の部分に幹のように貼り絵をしたり、土台に色を塗ったりした。それぞれが得意な作業を行うことで一本のツリーができあがった。サンタクロースは、A4サイズをポスター印刷（９枚）することで大きなサンタを作ることにした。９分割にして、それぞれの方法（色鉛筆・クレヨン・ステンシル）で色をつけ、パズルのようにつなぎ合わせて完成させた。やはり、わかりやすく親しみの深い題材であり、仕上がってから個々に眺める様子が見られた。

４．まとめ

連続して月ごとに取り組んだことで、「学級生活」に見通しをもって取り組むことができた。分業にしたことで、自分が自信を持ってできる作業に取り組み、達成感をもつことができた反面、何を作っているのか、全体的な仕上がりを意識できないまま終わってしまうことが多々あった。

全体のイメージや仕上がりの雰囲気をもてるようにしたり、季節の絵本や歌などを取り入れたりして、今からすることの見通しをもつことができればよかった。

